

普及技術
分類名〔野菜〕

普 3	露地つるむらさき栽培における適品種と栽培方法
-----	------------------------

宮城県農業・園芸総合研究所

要約

タキイ種苗育成つるむらさき品種「つるむらさき」は、本県での露地栽培に適しており、茎は太く、葉数も多いボリュームのある収穫物が得られる。また、栽培様式は株間30cm、摘心位置は第5～7節が適しており、春の晩霜の影響がなくなった5月上中旬に定植することで収量増加が見込める。

〔普及対象：つるむらさき生産者〕
〔普及想定地域：県内全域〕

1 取り上げた理由

本県のつるむらさき生産は、県南を中心に露地栽培での生産が多いが、露地栽培に適した品種及び収量増加を目的とした長期収穫を可能とする定植早限が明らかになっていない。そこで露地栽培に適した品種、栽培方法、長期収穫を見込める定植早限について明らかにしたので普及技術とする。

2 普及技術

- (1) 「つるむらさき」は、1本あたり調製重が23.3g、葉数は10.1本であり他品種と比較してもボリュームがある収穫物が得られる（表1）。
- (2) 「つるむらさき」を露地とハウスで栽培した結果、露地栽培の方が1本あたり調製重及び葉数ともにハウス栽培の収穫物よりも調製重が重くなる（表1）。
- (3) 株間30cm（3,996株/10a）と株間20cm（6,028株/10a）で比較した結果、換算収量で500～700kg/10a程度の差が生じ、株間30cmが優れる（表2）。
- (4) 主枝摘心位置が収量に与える影響は見られないが、10節摘心区は5節摘心区に換算収量でやや劣る傾向がみられる（表2）。
- (5) 5月11日、18日、25日に定植して栽培した結果、5月11日定植が最も早く収穫開始でき、収量も多くなる（表3）。

表1. 「つるむらさき」の収量・品質（令和2年、名取市）

栽培様式	品種	収量			品質	
		1本あたり 調製重 (g/本)	株あたり 収穫本数 (本/株)	換算収量 ^z (kg/10a)	葉数 (枚/本)	最大葉長 (cm)
露地	つるむらさき	23.3	24.6	2,290	10.1	8.8
	A社品種	15.6	40.2	2,506	8.1	7.8
ハウス	つるむらさき	16.8	33.3	2,236	7.4	6.8
	A社品種	9.4	65.5	2,460	7.0	8.5

z：換算収量(kg/10a)=1本あたり調製重(g/本)/1000×株あたり収穫本数(本)×栽植密度(3,996株/10a)

3 利活用の留意点

- (1) 本成果は、令和2年から令和4年にかけて、宮城県農業・園芸総合研究所内（宮城県名取市）における栽培試験により得られた成果である。
- (2) 耕種概要は下記のとおり。栽植密度は、畝間150cm、ベッド幅100cm、シルバーマルチ被覆、条間40cm、株間30cmの2条植え（3,996株/10a）とし、肥培管理はスーパーMMB有機をN換算で15kg/10a全量基肥施用する。

【令和2年】
播種：4月16日、定植：5月11日、収穫期間：7月1日～9月4日
【令和3年】
播種：4月19日、定植：5月26日、収穫期間：7月11日～9月17日
【令和4年】
播種：4月13日、定植：5月11日、収穫期間：7月11日～10月3日
※128穴セルトレイに播種後、電熱温床マット加温により25℃以上で育苗管理

- (3) 本試験では、主枝を摘心し、その主枝から発生する側枝を収穫した。側枝は順次更新し、孫枝まで収穫を行った。
- (4) 降霜の恐れがある場合は防霜対策を講じる。
- (5) 出荷荷姿は、宮城県出荷規格（茎葉の長さ20cm）に準じ、調製した。
- (6) 経営収支は以下のとおり。

◎経営収支の内訳（10aあたり）

項目	金額	備考
粗収益①	1,543,200	収量3,858kg、200g/袋、単価80円/袋
経営費	種苗費	6,105 キャプタン処理種子1dl×3袋
	資材費	163,460 肥料、農薬
	諸材料費	59,317 セルトレイ、育苗培土、マルチ
	出荷販売経費	199,072 出荷資材、運賃、販売手数料
	人件費	1,074,485 計8人（一般管理・収穫4人、出荷調製4人）
	支出計②	1,502,439
限界利益③（①－②）	40,761	粗収益－支出計（機械費用を考慮しない利益）
固定費④	11,644	減価償却費
農業所得（③－④）	29,117	機械費用を考慮した利益

注）宮城県営農基本計画指標を参照し、一部改編し、宮城県南部の任意組織による経営費より。

（問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所 野菜部 電話 022-383-8124）

4 背景となった主要な試験研究の概要

- (1) 研究課題名及び研究期間
みやぎ独自の園芸生産技術の開発（令和2年～）
- (2) 参考データ

表2. 栽培様式と主枝摘心位置が収量・品質に及ぼす影響（令和3年、名取市）

栽培様式	摘心位置	収量			品質	
		1本あたり 調製重 (g/本)	株あたり 収穫本数 (本/株)	換算収量 ^z (kg/10a)	葉数 (枚/本)	最大葉長 (cm)
株間30cm	5節	24.2	23.1	2,234	9.1	8.7
	7節	25.0	20.6	2,058	9.1	8.7
	10節	23.5	21.3	2,000	8.1	8.4
株間20cm	5節	24.8	10.1	1,510	8.8	9.0
	7節	24.2	10.3	1,502	8.3	8.9

z：換算収量(kg/10a)=1本あたり調製重(g/本)/1000×株あたり収穫本数(本)×栽植密度

表3. 定植日が収穫期間・収量に及ぼす影響（令和4年、名取市）

定植日	収穫期間	収穫重 (g/株)	収穫本数 (本/株)	換算収量 (kg/10a)
5月11日	7/11～10/3 (84日間)	409	12	1,635
5月18日	7/15～10/3 (80日間)	334	14	1,334
5月25日	7/20～10/3 (76日間)	304	12	1,213

z：換算収量(kg/10a)=株あたり調製重(g/株)/1000×株あたり収穫本数(本)×栽植密度(3,996株/10a)

- (3) 発表論文等
- イ 関連する普及に移す技術
 - なし
 - ロ その他
 - 令和3年度東北農業研究成果情報（つるむらさき品種「つるむらさき太茎」と「つるむらさき特選種」の露地栽培における収量）
- (4) 共同研究機関
- なし